



KONICA MINOLTA

夏の星座解説

S-208 (13分41秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

M

夏。一年の中で一番暑い季節。セミの鳴き声が暑さを強調しているようにも聞こえます。

夏は、最も昼が長い季節でもあります。その為、地表が強く暖められ、入道雲が生まれます。

雨も多くなり、植物の葉が繁り、動物の活動も盛んになります。

セミの声が次第に聞こえなくなり、空高くまで昇っていた太陽も、やがて北よりの西の地平線に消えゆこうとしています。

※音楽終まる

M

夏の星空です。

昼の汗ばむような太陽が消えると、暑さも少し和らいだように感じます。

更に、夏の夜空には、涼しげな大きな川が流れているのをご存知でしょうか？

そう、日本では七夕でも知られている『天の川』です。

ただ実際の、『天の川』の光は淡いため、月明かりや、街の光が明るい場所では、見ることが難しくなります。

今日は、プラネタリウムで、その美しい姿を十分楽しんでくださいね！

見上げてください。

星空

雄大に流れる『天の川』と星たちが、目に飛び込んできます。

そんな夏の星々の中、頭の真上近くに、明るい星を見つけることが出来ます。

見つかりましたか？

ほら、この星です。

この星は一等星の『ベガ』。

『天上の青ダイヤ』とも呼ばれる、美しい夏を代表する星の一つです。

『ベガ』は、日本では七夕物語の『織りひめ星』としても、有名です。たいへん明るい星なので、街の夜空でも、見つけることが出来るでしょう。

この『ベガ』は、星座で言うと『こと座』の星になります。

日本の琴とは形が違いますが、これは、西洋の人たちが描いた豎琴の形なんですね。ギリシャ神話では、琴の名人、オルフェウスの豎琴が、天に昇つて星座になつたと伝えられています。

M

『こと座』より、少し低いところに、一羽の鷲が勇ましく飛ぶ姿を描いた、『わし座』があります。

この鷲は、ギリシャ神話に登場する神様の中で、一番偉い大神ゼウスが変身した姿だと言われています。

『わし座』の中に見える明るい星は、一等星の『アルタイル』です。

『アルタイル』とは『飛ぶ鷲』という意味。

ベガ

こと座

わし座

アルタイル

『アルタイル』を真ん中に、三つの星が並んでいます。

両端の星を羽。『アルタイル』を鶯の胴体と見立てる、『アルタイル』を鶯の羽と見立てる、空を自由に飛び回つているように見えます。

そこで、真ん中の明るい星を『アルタイル』、『飛ぶ鶯』と呼ぶようになつたそうです。

M

この『アルタイル』は、七夕の牽牛星、『彦星』としても有名です。

七夕の『織りひめ星』と『彦星』の物語。織姫は、機織の上手な働き者の娘。

また、彦星も牛飼いとして働き者でした。そんな二人が結婚をしました。

ところが、めでたく夫婦となつた二人は、すっかり働くことを止めてしましました。この事に天の王様は怒り、二人を天の川を隔てて引き離してしまいました。

ただ、年に一度、七月七日だけは会うことをゆるされたのです。

しかし七月七日に、雨が降ると天の川の水かさが増し、二人は会うことができないのです。

この七夕物語にあるように、『織りひめ星』の『ベガ』と『彦星』の『アルタイル』。

この二つの星の仲を裂くように『天の川』が流れています。

一年に一度だけ会うことが許された愛の物語・・・

夏の星空で、そんな物語が展開されているなんて、ちょっとロマンチックじゃありませんか？

星が集まつて出来たのが天の川ですが、所々、黒い穴が開いたような所が見られます。

しかし、この部分にだけ星が無いのではなく、それは、光を通さない『暗黒星雲』と呼ばれる黒い雲のようなものがあるためです。

『天の川』の中を少し北に目をうつすと、明るい星を見つけることができます。

一等星の『デネブ』です。

『デネブ』から大きな十字の形に、星が並んでいます。

この並びを十字架に見立て、南の『南十字』に対して、これを『北十字』と呼んだりします。

『デネブ』は、『はくちょう座』の星でもあります。

十字の形に、白鳥が羽を広げた姿が重なります。はくちょう座

『デネブ』には、『尾っぽ』とか『おしり』という意味があります。

名前の通り『デネブ』は白鳥の尾っぽの辺りに輝いていますね。

これまで、紹介してきた三つの一等星・・・。

『こと座』の『ベガ』。

『わし座』の『アルタイル』。

アルタイル

ベガ

デネブ

この三つの星を結ぶと、大きな三角形が出来上がります。

そして、『はくちょう座』の『デネブ』。

これが、夏の星空のシンボルとも言える『夏の大三角』です。

この『夏の大三角』は見つけやすいので、覚えておくと、夜空で星座を見つけるときに役立ちます。

※音楽終わる

M

天の川を南の地平線へとたどって行きましょう。赤い色をした、明るい星があります。

見つかりましたか？

これが、一等星の『アンタレス』です。

赤く輝く色から、日本では、まるでお酒を飲んで、酔っぱらって赤くなつた星として、『酒酔い星』とも呼ばれています。

『アンタレス』とは『火星の敵』と言う意味。

西洋では、火星と同じように赤く光る星であつたことから、そう名づけられたのです。

『アンタレス』の辺りの星を結ぶと、アルファベットの大きな『S』の字の形になります。あるいは、魚釣りに使う釣り針の形に似ているとも言われます。

しかし、この星の並びが、星座では、とんでもない毒を持った、ある生き物の姿になるのです。

さそりの姿、『さそり座』です。

日本では、あまり馴染みがありませんが、尾の先に毒針を持った生き物なのです。

さそり座

赤く輝く『アンタレス』は、
『さそり』の心臓に位置しています。

星空には、このサソリを弓で狙っている
ものがいます。

それは、『いて座』のケイローン。

ギリシャ神話では、ケイローンは
ケンタウルス族出身の勇者でした。。

ケンタウルス族は、上手に馬を乗りこなしたと
云われているので、星座の絵では、
上半身が人間、下半身が馬という姿で
描かれています。

南斗六星ライン

『南斗六星』といいます。

いて座を見つける目印になります。

『南斗六星』以外の星は見つけにくく、
この星の並びから、サソリに向かって
弓を引き絞るケイローンの姿を想像するのは
難しいですね。

※音楽終わり

いて座
さそり座

M エンディング音楽

夏の夜空は、キラキラまばゆく輝く一等星を
中心に、星たちが瞬きます。

『天の川』が最も明るく、見やすい季節も、
この夏です。

明るく輝く三つの星で、見つけやすい
『夏の大三角』

夏の大三角

この『夏の大三角形』をポイントにして、
夏の星や星座の世界に旅立ちましょう。

今度は本当の星空で、今日紹介した星や星座を
搜してみて下さい。

夜空に、星や星座を見つける喜びや楽しさ、
きっと感じていただけると思います！